



# 空き家を再生して 限界集落を`限界集楽`に



かつて鉱山のまちとして栄えた養父市明延区は、現在では40人ほどが暮らす限界集落に。鉱山関係者が集まったまちの象徴的な場所「小林たばこ屋」も10年前から空き家になっていましたが、2023（令和5）年11月、看板に施された左官の鰻絵がSNSで注目を集めます。それをきっかけに、地元住民から「たばこ屋を残してほしい」という声が出るようになり、NPO法人但馬を結んで育つ会やコミュニティデザインラボ（宮崎県）、養父市社会福祉協議会が協働で空き家を再生。資金はクラウドファンディングや補助金などで賄いました。25年6月に「小林たばこ

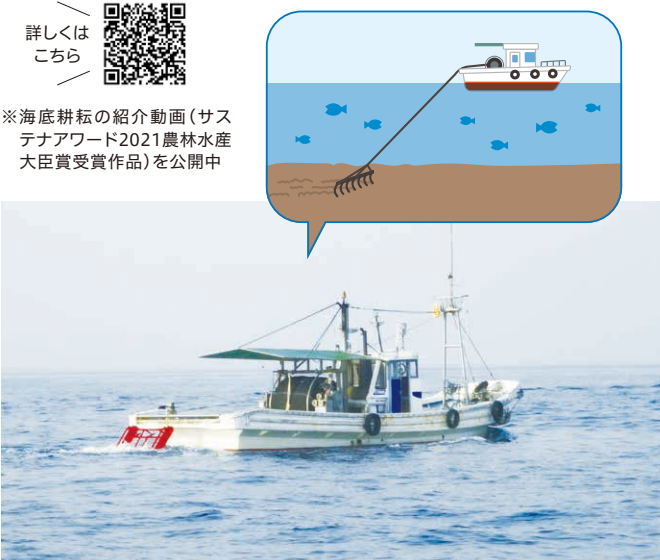
総合会館」として生まれ変わった建物は、住民ボランティアの協力を得て毎週火曜に開館。地元野菜や生活用品を扱う「明延購買部」、鰻絵の龍をモチーフにしたキャラクターグッズを販売する「空想土産屋」を運営し、オンライン診療「テレビ病院」の実証実験も始まりました。住民からは「毎週ここに来るのが楽しみ」との声が聞かれ、笑顔が集まる場所になっています。これからも“限界集楽”をテーマに、会館を「限界を超えて楽しいを集める場」にしていけます。（（社福）養父市社会福祉協議会事務局長 吉田明博さん）

（社福）養父市社会福祉協議会  
☎079-662-0160 📠079-662-0161

1 まちの記憶を受け継ぎ再生した「小林たばこ総合会館」。2 “限界集楽”と書かれたふすまの前で、円になって体を動かす住民。

明石浦漁業協同組合ではノリの色落ちやイカナゴの不漁の原因とされる海の栄養不足を解消するため、2008（平成20）年から海底耕耘に取り組んでおり、昨年は6月～7月の延べ6日間で31隻が出動しました。爪が付いた鉄製器具を沈め、船で引っ張って底の土を掘り起こすことで、堆積している窒素やリンといった栄養塩を海中に放出します。近年の調査では、魚やタコの餌となる底生生物が増えていることが分かりました。これからも地道に活動を続け、生物多様性と生態系の健全性が保たれた豊かな海づくりに努めます。（明石浦漁業協同組合 葛上稜さん）

☎明石浦漁業協同組合 ☎078-912-1771 📠078-912-2094



船尾に付く赤い器具が、海底を掘り起こす耕耘桁です。

詳しくはこちら  
※海底耕耘の紹介動画（サステナワード2021農林水産大臣賞受賞作品）を公開中

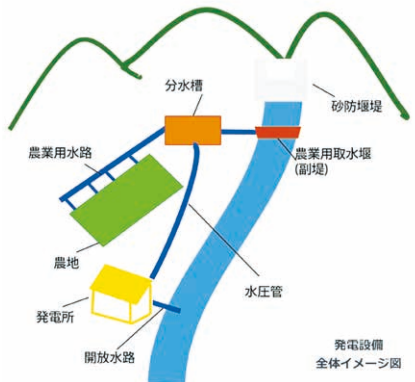
底を耕し豊かな海へ

## 小水力発電でまちににぎわいを

宍粟市千種町の黒土地区では有志が中心となり、黒土川の水を活用する小水力発電所を運営しています。約10年前、大正期に水力発電が行われていたと知り、地区の活性化のために再び取り組もうと合同会社を設立。発電所建設に向け、資金集めや住民への説明に奔走しました。県の「地域創生再エネ発掘プロジェクト」の補助金や（公財）ひょうご環境創造協会の無利子貸付制度を利用し、2023（令和5）年5月、ついに黒土川小水力発電所が稼働しました。売電収益は現在、一部を自治会に寄付し、残りは上流にある



売電収益は地区に人を呼ぶための整備費に。



黒土川の農業用取水堰（げき）から取り入れた農業用水の余水を730m先にある発電所へ送り、電気をつくっています。

滝までの散策路やビオトープの整備に充てています。整備初年度は、取水部分の景観改修に使用しました。発電所についても、見学の受け入れにとどまらず環境学習の場として活用し、地域に人を呼び込みたいと考えています。（黒土川小水力発電（同）共同代表 阿曾知世巳さん）

☎黒土川小水力発電（同）  
☎090-7099-2616（阿曾）  
☎090-3618-8178（岡山）

詳しくはこちら